



令和5年度 杉並区立富士見丘小学校 経営方針

校長 竹内 明子

富士見丘小学校では、子供たちの生き生きとした姿と成長が見られるよう、保護者・地域の皆さんとのつながり・かかわりを大切に、より良い学校づくりを進めてまいります。

自分が好き ✿ 自分の良さを知っている ✿

『杉並区教育ビジョン 2022 みんなのしあわせを創る杉並の教育』

明日も行きたくなる しあわせな学校に

重要な5本柱

未来への入口

① キャリア教育

- ・人と人とのかかわりやつながり
- ・こういう力をつけたい
- ・こういう自分になりたい
- ・将来の夢・希望・憧れのイメージ

東京2020オリンピック・パラリンピックを通じた豊かな学びを継続

② 学校 2020 レガシーの推進

- ・障害者理解教育
- ・スポーツ志向
- ・日本の伝統・文化理解教育

考える授業！
考える子供！
考える教師！

自己の学びを深める

③ 探究的な学習・活動

- ・主体的
- ・対話的
- ・深い学び

子ども生き生き

④ 授業でのICT活用

＊ 教職員のゆとりと笑顔

⑤ 働き方改革

- ・さらなる改革
- ・何を変えるか

1 目指す学校像(校風)

「明日も行きたくなる しあわせな学校」

- (1)日々の授業が楽しく充実していること（主体的・対話的で深い学び）
- (2)子ども一人一人が活躍できる時や場面・場所があること（自己肯定感・有用感）
- (3)自分の良さを知り、自分自身のことが好きであること（自己理解）
- (4)一人一人の良さがつながり、協力できること（人間関係形成・社会形成）
- (5)互いを思いやる風土が育ち、いじめがないこと（人間関係形成・社会形成）
- (6)文化・芸術を好み、親しめること（心の豊かさ）
- (7)体を元気に動かすことを楽しめること（健康）

2 育てたい児童像(学風) 《新・学校教育目標》

「みんなのしあわせを創る富士見丘小学校」

- ・深く学ぶ子
- ・自分も人も大切にする子
- ・すすんで運動する子



3 求める教師像(教風)

- *進取の精神をもって、よりよい授業や学校の実現に努力することのできる教師
- *謙虚に、そして先入観にとらわれずに共感的に人と接することのできる教師
- *服務事項を遵守し、真摯に職務を遂行することのできる教師

「知識より大切なのは想像力だ。知識には限界があるが、想像力は世界を覆う。」

by アインシュタイン

・・・現代における関連キーワード「**主体的・対話的で深い学び**」
「**探究的な学び**」

4 今年度の経営方針の柱

(1) キャリア教育の充実

～小学校におけるキャリア教育は、未来への入口である～

(社会で生きていくために必要な、基礎的・汎用的能力を育てる)

- ・ 本校の教育活動全般においてキャリア教育を意識した取組を行う。
- ・ 特に自立的・協働的な学校づくりとしての本校の「えんげき」では、コミュニケーション能力の育成を主眼に人と人とのかかわりやつながりを大切にした指導を行う。

(2) 学校 2020 レガシーの推進

学校2020レガシーとして次の3点に重点を置き、カリキュラム部会がリード役になって、創意工夫して組織的・計画的に取り組む。

・障害者理解教育

・スポーツ志向

・日本の伝統・文化理解教育

(外部講師の積極的活用・体験活動の工夫など。)

(3) 探究的な学習・活動の充実

探究的活動を繰り返し、深める。

- ・ 児童が課題を見つけ、探究的な活動を積み重ねることで、課題設定能力・解決能力・発信力を身に付けさせる。児童の探究的な学習の技能は、一度の経験では身に付かないので、日々の積み重ねが重要。
- ・ 例えば、行事においても、えんげき・移動教室・社会科見学・美術鑑賞・国際交流・古典芸能鑑賞教室などの事前・事後学習に探究的視点を取り入れる。
「児童それぞれが解決に向けた探究を行い」→「その成果を個人やグループで記事や作文・図柄などでまとめ」→「他に発信する」→「振り返る」、というような学習サイクルを繰り返し、学びを深めていく。

(4) 授業でのICT活用

- ・ICT を活用し、授業を分かりやすく
- ・ICT の活用で、児童がワクワクする授業に
- ・児童の探究的な学びにつなげる使い方や工夫
- ・「思考の可視化」、「思考の共有化」、「思考のアウトプット」のサイクルづくり
- ・「普段使い」としてのタブレット PC 活用により、探究的な学びや活動を可能に
- ・ペンマール、NAVIMA の効果的活用
- ・プログラミング授業の工夫

(5) 本気の働き方改革

- ・ 分掌や学年を単位とした組織的働き方改革を通し、私たちに時間的ゆとりが生まれるようにする。業務以外のプライベートな時間が確保できたり、家庭と仕事の両立がしやすくなったりと、私たち自身が心身ともに健康的でいられるようにし、ゆとりをもって子どもたちの前に笑顔で立てるようにする。
- ・ 「分掌完結型組織運営」を本校のベーシックスタイルとし、学校運営機能の見直し・校務の効率化などの業務改善を進める中で、組織的な働き方改革を創意工夫し、取り組む。「本気」で取り組むために、自己申告書に具体的方策を記載し、成果を追求する。

5 関連した取組

(1) 基礎学力の向上

児童の基礎学力を定着させるため、指導内容・方法を工夫し授業の質を高める。

- ・ 指導計画に基づく意図的・計画的な授業の実施。
- ・ 学力調査の活用。
 - 学力評価部による分析を行い、各学年における課題の共有化・指導の重点化による指導方法の工夫・改善を行う。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」ができる工夫

- ・ 探究的・体験的な学習活動の充実。
- ・ 授業の質的向上への日々の研鑽。…意欲的な教員相互の授業参観
- ・ めあてのある課題解決型の授業実践。「指導と評価の一体化」。
- ・ 校内 OJT の活性化。→ 学年間・若手の会

(3) 生活指導の充実(安心・安全の確保)

- ・ いじめ未然防止のための教育の充実(自己肯定感・自己有用感・活躍できる場)
 - 「明日も行きたくなる しあわせな学校づくり」
 - いじめ防止となる指導は、日々丁寧に。(子ども一人一人が活躍できる場を。)
- ・ いじめの早期発見・早期対応
 - 認知(おかしいと直感したらすぐに！)と対応(事実確認・いじめの終息指導)は素早く。
 - いじめは、どの学年・どの学級でも起こりうるものであるから、自分の学級で起こったとしても不思議ではない。本校のすべての子供は「自分の学級の子」だけではなく、「富士見丘小の子」。よって、絶対に教員一人で抱え込まず、いじめの予兆など、おかしいと感じたらすぐに学年主任・生活指導主任・管理職に報告・連絡・相談をする。
 - いじめは、「学校いじめ対策委員会を中心とした組織的対応」。

→ いじめ対応は、必ずいじめ・いじめられ双方の保護者と連携をもち、解決につなげる。また、再発防止のために家庭教育の力も得る。

- ・ 不登校児童への個別対応の充実
 - 保護者との連携を密に。
 - フリースクールなどへの参加は、本校への出席日数としてカウントする。
- ・ 授業規律・礼儀・挨拶等、生活習慣の確立。
- ・ 校内事故の防止「命の確保」「安全確保」
- ・ 危機管理マニュアル(防災・防犯体制)の見直し・整備。全教職員での共通理解。
- ・ 美しく、整理整頓された、ゴミの落ちていない校内環境づくりと定期的な校内安全点検(遊具・備品・薬品・ガラス等)。
 - ・・・(例)「いつもきれいな黒板」、「整とんされた学級文庫」
- (4) 道徳教育の充実・・・「考え、議論する道徳」
 - ・ 実生活につながられるような深い学びができるように。
 - ・ 同学年内の授業者交換授業(ローテーション授業)の実践。
 - 学期に1回以上。可能なら年間での回数を増やす。
- (5) 体力の向上(継続的な運動への取組)
 - ・ 体育的集会・体育的活動等の内容を工夫し、たくましい体をつくる。
 - ・ 体力づくりや食育への取組を通して、心と体の健康づくりを推進。
- (6) 特別支援教育・インクルーシブ教育の充実
 - ・ 定期的な特別支援教育研修を充実させ、児童理解の下、効果的な支援を実践。
 - ・ ユニバーサルデザイン型授業の実践・工夫。
- (7) 豊かな感性を育む自立的・協働的な学校づくりの展開(豊かな文化・芸術体験・国際交流体験の展開)
 - ・ 読書活動・読み聞かせの充実
 - ・ 給食献立(月見・伝統行事・学校2020レガシーを意識した国際色あるものなど)の工夫。
 - ・ 演劇体験など、外部講師による指導の充実
 - ・ 各教科作品等の掲示・展示方法の工夫
 - ・ 芸術教科等での授業の工夫
 - ・ 外国の方々との交流授業の実施 など。

- (8) 保護者・地域・各種企業との連携
- ・ 授業における外部人材の積極的活用。
- (9) 学校コンプライアンスの遵守。服務事故ゼロ。
- 日常的に教職員同士が互いに啓発し合う。
- (10) 学校情報の発信
- 日々の情報を発信する学校ホームページの充実
(学校支援本部と連携した情報発信)
 - 学校だより・学年だよりを活用した学校理解の促進。
- (13) 学校評価の活用
- 各種評価の結果を分析・考察し、具体的な改善のための施策を実行。
- (14) 適切・計画的な校内予算の執行と管理
- 各学年・教科・分掌等における必要な備品・消耗品は、2 学期末までに計画的に購入する。2 学期末までに使われない予算は、使う予定のないものと考え、校内で別途必要となった消耗品購入に適切に充てられるようにする。

6 校長の思い

- ・ 教師は子どもの未来をつくる仕事。
- ・ 学校とは、子どもが成長した時、人として社会の中でより良く生きていけるようになる場所。
- ・ 人としての礼儀を大切にした教育(挨拶・お礼など)。教職員同士の礼儀も大切。
- ・ 全員が学校経営方針の実現意識・学校運営参画意識をもって業務・教育活動を実践。教職員一人一人の得意とする部分を生かす(適材適所)。
- ・ 学校経営方針の実現は、各教職員・各担当者・各組織の一つ一つの創意工夫による。有効な計画と、日々の小さな積み重ねが経営方針実現の最大の近道。
- ・ 校長―副校長―主幹教諭―各主任―各担当者、の業務ラインを基本とした分掌完結型運営形態の実践。
- ・ チームは協調性。やりたいこと・やるべきことは個人ではなくチームで相談&企画。

